

## 『くじらのまち』上映会開催！

関東同窓会主催の映画『くじらのまち』上映会は4月6日(日)の午後、日本教育会館喜山倶楽部(千代田区一ツ橋)で開催された。東京の桜は満開を過ぎたとはいえ、会場付近の皇居、北の丸公園周辺は花見客で大賑わいであった。

この日の主演鶴岡慧子さん(105期、菅平出身)は、この3月東京藝大の大学院を卒業したばかりの若手新進気鋭の映画監督である。2年前、立教大学卒業時に制作した自主映画『くじらのまち』が、2012年ぴあフィルムフェスティバル(PFF)のグランプリを獲得した。

当日は、同窓生の他、鶴岡さんの親戚や友人も含め72名の観客が集まった。

65期関係では、本上映会のプロデューサー役の上原昇(2組)、同窓会役員の丸山暢久(4組)、原田義則(3)をはじめ8名が参加した。

同窓会主催の映画上映会は、4年前の『サマーウオーズ』以来である。

冒頭、関東同窓会の滝澤進会長(61期)から「本上映会は同窓会の若手会員強化策の一環で企画した」との挨拶のあと、70分間の映画上映が開始された。

上映後、上原の進行で鶴岡さんとのトーク&質疑応答を行った。

鶴岡さんによると、『くじらのまち』は日本だけでなくいろいろな国でも紹介され、特にアルゼンチンでは好評だった。日本の観客は上映中おとなしいが、外国では笑いが出たりして反応がよく分かったか。

同窓生からも質問や感想が沢山出され、その中で「映画製作の資金は大学から出たのか(答えは“NO”）」、「“くじらのまち”の意味するものは」「映画の中で流れる音楽は？」など同窓会ならではの盛り上がりを見せた。最後に、同窓会を代表して105期の二人が鶴岡さんにお礼の記念品を贈呈した。

鶴岡さんは社会人となつての監督第一作目に取りかかっており、今8月頃にはクラックアップの予定とか。同窓会として、次回作の上映会を企画したいものである。

(14年4月8日、上原記)

### 【写真説明】

- ① 上映後のトーク(鶴岡さんと進行役の上原副会長)
- ② 記念品を贈られて(左から高橋、鶴岡、沢井さん、105期の仲間で)



写真①



写真②